



夏休みの課題から考えたこと

校長 各務 恵美

今年度の夏休みは、始まりと終わりが土日や祝日と重なったこともあり、例年より長い休みとなりました。子供たちは、自分で計画を立てながら過ごした夏休みに期待を膨らませる一方で、毎日の生活を自分で組み立てる難しさも感じたことでしょう。計画を立て、実際にやってみて、振り返り、必要に応じて修正する。そしてまた挑戦する。この繰り返しこそが成長につながります。夏休みの作品づくりや自由研究も、そうした試行錯誤の積み重ねによって完成したものではないでしょうか。

今年度の「夏休みの宝物」には、多くの保護者の皆様にご来場いただきました。熱心に作品を見てくださるご家族の姿があり、子供たちにとっても大きな励みになったことと思います。心より感謝申し上げます。

さて、夏休みの課題の一つである読書感想文を、各学年代表の作品で読ませてもらいました。その中で特に心に残ったのは、ある児童が感想文の冒頭に書いていた作者への思いです。その児童は、その作者の作品が好きで何冊も読んでいること、そして作者が亡くなり、もう新しい作品を読むことができないことへの寂しさを綴っていました。

私は小学生の頃、「この人の書く文章が好きだ」「この作家の本が好きだ」と人に話せるほど深く本を読んでいたわけではありません。その児童の言葉から、本と真剣に向き合い、作品の世界を大切にしている姿が伝わってきて、心から感心しました。

本を読むことは、ただ文字を追うことではありません。登場人物の気持ちを想像したり、自分には経験のない出来事を疑似体験したりしながら、「自分ならどう思うだろう」「自分ならどうするだろう」と考える機会を与えてくれます。そして、読んだ本に対して自分がどう感じたのかを言葉にすることで、自分自身の考えもより深まっていきます。読んだ感想は人それぞれ違います。同じ本を読んでも感じ方が異なるからこそ、読書は面白いのだと思います。

運動会が終われば、読書に最適な季節を迎えます。この秋はぜひ、読んでみたい本を見つけて表紙を開いてみてください。そして、ご家庭でも読んだ本の感想を伝え合っていただけたらと思います。読書には、知識や教養を広げること、語彙を豊かにすること、想像力を高めることなど、さまざまな効果があります。また、黙読だけでなく声に出して読む音読にも、言葉への理解を深める効果があると言われています。

一冊の本との出会いが、子供たちの世界を広げ、新しい考え方や価値観に触れるきっかけになることを願っています。

【令和8年度 岐阜県美術展少年部 表彰】

優秀賞	5年	水野実央莉さん	4年	原田 莉那さん
	2年	樋口 詩珠さん	1年	高野 美結さん
入選	6年	鈴木 琴葉さん	5年	熊崎 凜花さん
	4年	瀬瀬 陽彩さん	4年	佐々 仁佑さん
	3年	夏目 明穂さん	3年	古田 七瑚さん
準入選	6年	横井 仁香さん	6年	紀藤 沙那さん
	4年	樋口 夢笑さん	4年	原田 都生さん
	3年	鈴木 倅也さん	3年	加藤 咲妃さん
	2年	佐々 わこさん	1年	鈴木 幸奈さん



2年 寺中 美月さん
5年 水野 聖武さん
3年 小林奏士郎さん

総勢 21 名 おめでとうございます！